

# 奄美大島におけるアカウミガメおよびアオウミガメ 産卵個体の衛星追跡調査

Katsuki Oki and Toshimitsu Arata Team

Amami Marine Life Research Group  
and Doren Camp

**O-12 奄美大島におけるアカウミガメおよびアオウミガメ産卵個体の衛星追跡調査**  
 Satellite tracking of loggerhead sea turtle and green sea turtle in Amami Island  
 ○奥 克樹(奄美特設隊), 高田 利規(遠征キャンプ組), コニーカーヤン(遠征組), フニバー(奄美特設隊), ジョージハラス(奄美特設隊)

2014年に開催された第25回日本ウミガメ会議(奄美大会)において特別講演をしていたジョージハラス氏、コニーカーヤン氏から、会談後、奄美大島のウミガメ保全活動に協力したいとの申し出があり、今年度、両氏から提供していただいたARGOS発信機による衛星追跡調査を実施した。

奄美大島においてウミガメの上陸産卵回数が最も多い奄美郡阿久根町安本聖地海浜で、2015年6月19日から7月17日にかけて上陸した雌10個体(アカウミガメ45個体・アオウミガメ45個体)に衛星発信機を装着し、同海岸から放流した。放流時には当会で実施しているウミガメミーティングを開催し、再集まったジョージハラス氏、コニーカーヤン氏からウミガメの生態解放や衛星追跡調査に関する講話をしていただき、参加者全員で衛星発信機を装着した個体の増殖を見守った。

アカウミガメは6月30日現在、5個体全てのアカウミガメから電波の発信を継続している。5個体のうち4個体(ID53766, 71916, 67147, 63749)は奄美大島沿岸を離れ東シナ海に漂着し、1個体(ID50148)は奄美大島沿岸を離れた後、東シナ海を北上、対馬海峡を通過し、日本海に入ったことが確認された。本調査において奄美大島のアカウミガメ産卵個体は主に東シナ海で確認している事が示唆された一方、日本海の本州沿岸へ北上する個体もいることが明らかになり、本個体の今後の動向が注目される。

アオウミガメは甲冑剥ぎ等の行動により衛星発信機が損傷を受け、比較的短期間の追跡しかできないことが多いとされるが、本調査では、最も期間の短い個体で産卵後35日間の発信、6月30日現在も1個体からの発信を確認している。5個体中3個体については、和歌山県田辺市沖まで(ID41457, 4550間)、伊豆群島の三宅島近海まで(ID53747, 35日間)、九州西部の八代海まで(ID65422, 発信継続中)移動を確認し、これらの沿岸部を徘徊域として利用していることが示唆された。残2個体のうち1個体(ID40606)は電波の発信が極少であったが、少なくとも沖縄県島尻県沖へ向かった事が確認され、1個体(ID42172)はBBB間の電波を発信したが、奄美大島沿岸からの他の海域への移動は認められなかった。現在も電波を発信し続けている個体から産卵後の経過における新たな発見が期待される。







